

# 信濃教育会報

第1122号

令和7年1月15日発行

目次	
研修ガイド	1
新春対談	2~5
第3回臨時総会報告	6~7
研究所報告	8~9
全県研究大会報告	10
退職校長会との懇談会	10
賛助会入会案内	11
ふるさとの大地PR	12
100年館の絵	12

令和6年度

## 新春対談



出口クリスタさん  
(パリオリンピック金メダリスト)

大日方 貞一  
(信濃教育会 会長)

於：長野誠心館道場

令和6年12月1日（日）、出口クリスタさんが通っていた塩尻市にある長野誠心館道場にお邪魔しました。オリンピック終了後も様々なイベントで大変ご多様な中でしたが、夏季オリンピックの個人種目で長野県出身者では初めて金メダルを獲得された出口クリスタさんとの対談の機会を設けていただきました。

## 研修ガイド

1月31日（金）

- 「防災教育セミナー」※信濃教育会・信州大学教育学部防災教育研究センター共催  
◎信州大学教育学部 図書館2F 講義室／オンライン参加も可能 ◇信濃教育会「防災教育」研究調査委員会委員による実践発表、能登半島地震から学ぶ講演会「学びを継続するために～震災、水害を乗り越えて～」佐渡友已成（輪島市立東陽中学校教諭）  
☆信濃教育会（榑本）026-232-2470

2月15日（土）

- 哲学対話Ⅲ ◎信州大学教育学部大講義室 参集およびオンライン ◇「グループで一緒に問い語り合うことで文章が自然に書けるようになる『対話的文章法の試み』」梶谷真司（東京大学大学院教授） ☆長野上水内教育会 026-226-2458

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先

# profile プロフィール

## 出口クリスタ（日本生命所属）

長野県塩尻市出身、カナダの女子柔道家

3歳から塩尻市広丘の長野誠心館道場で柔道を始める。

広丘小学校→丘中学校→松商学園高等学校→山梨学院大学

丘中学校時代：2008年全国中学校柔道大会44kg級3位、2010年52kg級3位

松商学園高等学校時代：1年時のインターハイ、国際大会で優勝。2年時から57kg級に

階級を上げ、さまざまな大会で優秀な成績を収める。

2018年4月より日本生命所属。2018年にカナダ代表入り。グランドスラム・パリでは

2018年の初優勝から3連覇達成。柔道世界選手権では2019年東京大会で初の金メダル獲得、2023年ドーハ大会でも優勝。

2024年パリオリンピック女子57kg級で金メダルを獲得した。

カナダ代表選手の柔道のオリンピック金メダルは男女通じて初めてであり、長野県出身者で夏季オリンピックの個人種目の金メダル獲得も、男女通じて初めてである。



**大日方** パリオリンピック、優勝おめでとうございます。

**出口** ありがとうございます。

**大日方** パリオリンピックでは、非常に素晴らしいご活躍をされました。表彰台に上がって爽やかな笑顔で手を振っている出口さんの姿が印象に残っております。金メダルを獲得までの間、いろいろと苦しいことや辛いこともあったかと思うんですが、それを乗り越えて、見事金メダルを獲られた時の気持ちをお話していただけますか。

**出口** そうですね。畳の上で、相手に指導がいった瞬間に自分の勝ちが決まったんですけど、その時は正直実感がないというか、勝ったっていう



意識よりかは終わったというか。優勝を目標に試合をしていたっていうよりは、ずっと夢だったオリンピックという舞台上、自分がどこまでできるかを楽しもうという気持ちでした。オリンピックに出るまでがきつすぎて、出られると決まった時は、「もうきついことは全部終わったからとりあえず当日は楽しもう」という気持ちで臨んでいたんで、勝った時はやっと終わったなという安堵感でした。表彰台に上がった時が一番実感したというか、本当にこれで終わったんだなっていう感じがありました。勝ちが決まった瞬間にすごく喜ぶ選手もいるんですけど、自分はそのままで一気に感情が出てきたわけじゃなくて、結構落ち着いていたというか、信じられないという気持ちでいましたね。だから今でもあんまり実感はないですね。

**大日方** 2021年に東京オリンピックへ出場ができなかったという悔しさをバネに、今までよりも2倍3倍と力をつけて技を磨いてパリオリンピックへ向かって行かれたその苦労というものは、並大抵のものではなかったかと思うんですけども。

**出口** そうですね。25歳、26歳ぐらいで自分でも一番脂がのってる時期だと思っていたし、東京でオリンピックが開催されるというのは自分的にもすごく特別なことで。家族も連れて行けるし、何としてでも出たかった試合ではあったので、出られないとなった時は本当に、まだまだ人生続くんで、これからはしんどいこともいっぱいあると思うんですけど、それでも一、二を争うぐらい多分しんどい出来事だったのかなとは思いますが。勝つために柔道をしてきて、その勝つ機会や自分の夢を達成させる機会を失った時に、自分に何も残ってなくて。それで柔道が続けたいかどうか悩んだ時期があったんですけど、気づいたらやっぱり道着、着てました。最初はとりあえずもう一回柔道を楽しめたらいいなっていうぐらいの気持ちで始めました。数ヶ月してまた試合に出始めて、確か3位ぐらいだったんですけど、もう一回優勝したいなっていう気持ちが芽生えてきて、そこからもう一回改めてオリンピックを目指すだけ目指してみようという気持ちで始めました。「東京五輪に出ているなら優勝していたであろう」ってすごい言われるんですけど、確かに世界ランキング1位だったし、そういう可能性もあったとは思いますが、出れてないってことは実力不足ってことだし、その負けがあったから今回のこの勝ちというか、ここまでやってこれたのかなっていうのは感じますね。しんどかったですけどね。もう二度と経験はしたくないけど、あの経験があったからっていうのもあると思います。

**大日方** 悔しさをバネにし、もう一度柔道と向きあって、自分を高めてこられたその姿っていうのはお話をお聞きしても非常に感動するところです。そんな柔道をこの誠心館で始めたということをお聞きしているんですが、柔道を始めるようになったきっかけは、どんなことですか。

**出口** 父親がカナダ人で、自分はハーフで、当時多分、こちら辺ってあんまりハーフの子がなくて、何があってもいのように護身術を習



わせたって父が言って、母もそれに賛成していました。うちのおばあちゃんが床屋をやってまして村山先生（誠心館道場 師範）がそこのお客さんで、3歳の時にスカウトされたというか、やらないかって言われたのがきっかけですかね。だから親の意見とタイミングが一致したってということですね。

**大日方** 素晴らしい道場が近くにあったってことも、今日の出口さんを作ってくれたんだらうなと思います。そんな柔道と3歳の時に会って、今回金メダルという世界の頂点に立ったわけですけども、その間、辛い時とか苦しい時、あるいは嬉しい時もあるあつたかと思うんですけど、自分を支えてきてくれたものって、なんだったんですかね。

**出口** 東京のオリンピックがダメだった時、周りが私をほっといてくれたことが一番ありがたかったなと思ってます。カナダにする、しないっていう時も、結局、自分の周りの人たちはみんな自分の意見を尊重してくれたし、オリンピックがダメだった後に、柔道をやるかやらないかも、「やったほうがいい」って言う人もいなかったし、「やめればいい」って言う人もいなかったし、とりあえず自分で決断をするのを待ってくれたっていうのが一番ありがたかったです。今となってはその自由があったから自分でやりたいことを選択できたかなって思っています。誰かに強制されたわけじゃなくて、自分でやることを選べたので。それがあったから、ここまで覚悟を持ってやってこられたと思うし、その自由っていうか、適度な距離が自分的には一番よかつたなって思いますね。

**大日方** 最終的には、自分が決断しながら自分の人生を切り拓いてきたところが、出口さんらしい生き方のスタイルなんでしょうね。周りの人の理解とか、あるいは自分に任せてくれる期待感とか、信頼感とかそういったものが出口さんを育ててくれたんですね。カナダへ国籍を移されてカナダでの生活もされているし、日本での生活もされているということですが、カナダの文化と日本の文化の違いについて少しお話ししていただけますか。

**出口** 日本は島国ってということもあって、結構集団意識が高いというか、それがいいところでもあり、悪いところでもあり。逆にカナダは移民の国なんで、すごい自由というか、他人に縛られるっていうよりは自分の意見を発しないといけない。両極端な文化があり、日本で成績が出なかったのは、無理やり合わせなきゃいけないっていうのが、ちょっと自分には合ってなかったと思います。自分にはたまたまカナダっていうルーツもあったし、その文化の感じが自分に合ってたっていうことだと思います。

**大日方** 文化の違いについてはどうですか。

**出口** 文化の違いですよ。自由な部分は多いですね。自由だからこそ、できなきゃ淘汰される世界ではあると思うんですけど。

**大日方** 自分に選択権があって、責任も自分に返ってくるっていうことで、出口さんの生き方と、カナダの皆さん方の考え方が重なってくるかなって印象を受けました。新聞を見させてもらいますと、柔道に対する姿勢も、「日本人は武道としての柔道」、「カナダの皆さんはスポーツとしての柔道」っていうことを大事にされるとありました。両方をクリスタさんの中で経験できているっていうことが、新しいスタイルの出口さんを作ってきたのかなってようなことも思うんですが。



**出口** はい、そうですね。自分はこの日本の柔道っていうのは、無くしたくないと思っています。カナダやヨーロッパへ行くときちょっと違うんですけど。柔道

はスポーツであって礼節とか、そこまで重きを置いてないとか。強ければいいという節がちょっとあったりします。自分はやっぱり柔道はスポーツとか、競技としても大事。面白いし。しんどいスポーツではあるんですけど、それだけじゃないなと思っています。人格とか、人間教育もできると思うし、忘れちゃいけない部分があると思っています。かといってずっと古い時のルールだけだと廃れていくとか少数派になっていってしまうと思います。その中でちょっとずつ新しい柔道という形ができればいいなって思ってるんですけど。自分はまだ指導者じゃなくて現役なので、誰かに教えるということをしたくないわけじゃないんですけど、柔道はこういうことなのかなっていうのを、自分でかみくだきながらとか、融合させながらやっていけたらいいなって思っています。自分の中では柔道が変化しなきゃいけないっていう思いもありますが変えたくないものも持っていて、自分らしい柔道を見つけれたらいいなと思っています。自分の姿を見せることで誰かがそれに共感してくれたらいいなと思いつつながら柔道をやっているの、畳の上でガッツポーズしないとか、自分で決めたことを貫き通していきたいと思っています。



**大日方** 出口さんは、メンタルトレーナーの辻さんと話をする中で、「柔道は人間教育」だと語っておられたじゃないですか。そのことと今のお話が重なってくるかなと思うんですけどね。

**出口** そうですね。礼節とかもそうですし、礼儀作法とか、挨拶をするとか他人を敬うという部分とか。個人競技とはいえ、やっぱり相手がいて初めて成り立つ競技だし。そういう部分で相手を敬うことと、その結果としていい練習ができる。社会だったら、一人で仕事するんじゃないで、みんなで仕事しなきゃいけない時に、いい雰囲気だったりとか、同

じ目標を持って頑張っていけたりとか、競技だけじゃなくて、それ以外の部分で私生活に役に立つと思います。人間として覚えておいたほうがいいこと、知っていたほうがいいことが、多分、柔道だけじゃなくて、いろんなスポーツにも盛り込まれていると思うんです。元々柔道は嘉納先生が人間教育を目的として作られた競技なので、そういう部分は変わらず、変えずに。自分もまだまだ未熟だし、完璧な人間じゃないし、ダメなところもいっぱいあるんですけど、そういうところも競技を通して勉強しながら成長していきたいなって思いますね。まだまだ発展途上ですね。終わりはないと思います。

**大日方** ありがとうございます。今、これからのこともちょっと話題になったんですけども、柔道選手として今後どんな目標を持っていらっしゃるんですか。

**出口** そうですね。オリンピックで優勝するっていうことを目標に今までやってきたので、今その目標が1個なくなって、まだ模索中ですかね。この数年、試合に勝つための柔道をしてきて、「競技力が上がったか」って言われたら、負けなくなっただけで、「格段に強くなったか」って言われたら、多分そうでもないと思うんですけどね。競技も勉強もそうだと思うけど、ゴールがあるものじゃないから。今多分、自分は停滞とか、ずっと同じところにいるんですよ。「勝つための柔道」のレベルにいて、その次のステップに行きたいなと思っています。大野将平さんが2連覇して、「次の領域に行きたい」みたいな感じのことを多分言っていたと思うんですよ。自分もその気持ちすっごいわかるなと思っています。柔道って終わりがあるものじゃないから、引退って言葉はなくて。自分は来年も現役を続けますし、復帰戦がいつになるかまだわかんないですけど、自分としては来年のその試合だったり、柔道をやったりしていく中で、今よりも違うステージにいたいというのが今一番の目標ですかね。オリンピックで勝つとか、2連覇するとかじゃない曖昧な目標ですけど。

**大日方** 具体的にその次のステージで、こんなことを目指してとかそういうことはいかがですか。

**出口** 具体的なことはないんですけどね。まあそこに向かうにあたってかもしれないし、そこに到達してかもしれ



ないし、いつになるかわかんないけど、それを目指すことで次の何かが見えてくるんじゃないかなとは思っています。そう、まだ模索中っていうとこですね。

**大日方** 我々出口さんを応援してる者からすれば、また次のオリンピックも頑張ってもらいたいと思いますし、今のお話をお聞きすれば、指導者として、これからの柔道選手を育ててもらいたいってような思いもあります。今後、いろんなところでご活躍されることを期待しています。最後に長野県の子どもたち、特に小中学生に伝えたいメッセージを語っていただければと思うんですが。

**出口** そうですね。やはり自分で選択するっていうことが、自分はすごい大事だなと思っています。それがどんな道であれ、他人に「ああしたほうがいい」とか、もちろん助言とかを聞くのはすごい大事だと思うんですけど、結局決めるのは、最終的には自分の決定。自分が望んでその道に行っていきたいと思えます。自分の中では、やっぱり柔道の話になってしまうんですけど、勝った負けたっていうよりは、勝ったって負けたって別にいいですよ。勝っても負けてもどっちでも。ただ自分が後悔するかどうかというのが一番大事なことです。まあ、今後生きていく中で勝つことも負けることもいっぱいあると思うけど、後悔するっていうのは人生においてすごくいらぬというか、あつてはいけないことだと思います。負けて成長するってことはあるけど、後悔して成長するっていうのはあんまりないかなって思います。失敗して成長はあるけど後悔で成長はあんまりないし、嫌な気持ちが残るだけというか。もちろん次こうしようっていうふうにはなるとは思うんですけど、だったらやりたいことをやって失敗して次こうしようだったらいいんですけど。「あっちにしとけばよかった」って後悔して、成功するかって言われたら、もちろんもしかしたら成功するかもしれない

いけど、ちょっとモヤモヤが残りますよね。だからやっぱり自分が後悔しない道を選んでほしいなっています。小中学生にはちょっと難しいかもしれないけど、自分で意思決定するというのが、今後大事になっていくなっていると思います。勉強であれスポーツであれいろんな分岐点があると思うんですけど、それが大事なのかなって思っています。

**大日方** 周りの人に敷いてもらったレールの上をただ歩くだけじゃなくて、自分で選択して主体的に生きていくっていうところを、これからの子どもたちには私も大事にしてもらいたいなと思います。

**出口** 自分がオリンピックで今回金を獲ってなくても、カナダ国籍になったことを後悔してないですし、結果として金を獲れたけど、多分獲れてなくても後悔してなかったから、それが自分としては良かったかなって思っているの、皆さんにも失敗はたくさんしていいけど、後悔はしないでほしいなっていますね。

**大日方** ありがとうございます。出口さんの今までの選手として歩んできた人生、子どもたちにとっても非常に大きな手本になると思いますし、憧れの存在だと思います。

**出口** 小学生の時の私なんて、何の手本にもならないですよ。本当にやんちゃ小僧だったんで。

**大日方** いやいや。私も長野県民として出口さんの活躍を応援いたしますので、ぜひ体に気をつけて、頑張ってください。今日は貴重なお時間、ありがとうございました

**出口** ありがとうございます。



## 会員の自主性・主体性を育む事業のあり方

### 学びたいことが学べて、憧れに出会い、 人とのつながりができる教育会

令和6年度第3回臨時総会が12月3日（火）に信濃教育会館講堂において、各郡市教育会から選出された代議員50名の出席のもと開催された。7つの協議題について協議され、「会員の自主性・主体性を育む事業のあり方」をテーマに意見交換がなされた。以下臨時総会の概略を報告する。

#### 【大日方会長あいさつ】

- 信濃教育会で編集を進めてきた『秘伝「信州教育の極意」』がいよいよ発刊となる。
- 明治5年学制発布後の信州教育の歩みを振り返ると、信州教育の創設期（明治）信州教育の最盛期（大正）信州教育の混乱期（戦前）信州教育の改革期（戦後）といった整理ができる。各時代を生きた幾多の先人の姿から学びたいのは、常に最先端を実践し挑戦してきたことや、自ら求めて、研鑽を積んでいたことである。
- 『秘伝「信州教育の極意」』には、次のような姿の先人を取り上げている。
  - ・子どもに寄せる深い教育愛を伝えた先人
    - ・林 芋村 ・淀川 茂重 ・篠原 菊彌 他
  - ・自己研鑽の意義を自らの生き方で伝えた先人
    - ・藤森 省吾 ・大村 はま ・丸山 利雄 他
  - ・教育の真髄を問い続け、理想とした教育を目指した先人
    - ・手塚 縫蔵 ・木下 紫水 ・井口喜源治 他
- 関係の皆様のご尽力により、発刊の運びとなったことに心より感謝。今を生きる先生方には、先人の言葉を通して自己の在りようを見つめ直すことで、信州の教師として、自信と誇りを持ち、信州教育の潮流を次代に繋げていただきたい。本書が多くの方の「座右の書」となることを期待する。

#### 【協議Ⅰ】

- (1) 令和6年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ
- (2) 令和6年度事業の成果と課題・今後の方向
- (3) 信教全県研究大会への参画について
  - ・令和6年度信教全県研究大会参加状況

- ・令和7年度信教全県研究大会応募状況
- ※(1)~(3)を一括協議 テーマ「会員の自主性・主体性を育む事業のあり方」～参加が少ない事業の要因と、改善に向けた今後の取組～
- グループ別協議
- 全体協議
  - ・参加が少ない要因は、日常の校務が多いこと。授業を自習にしてまで出られない現状がある。3つの視点を大切にしたい。①多忙感に寄り添う。②参加してよかったという思いを大切にしたい。③何よりも魅力ある事業を展開する。事業が、会員の日常の取組につながったり、憧れとの出会いの場となったりするようにしたい。
  - ・郡市で企画したコーヒードリップの講座が人気だった。体験参加が魅力になる。チラシを親しみのあるものにして案内することも大切だ。
  - ・教育委員会や教職員組合と教育会との共通点や相異点の理解を図りながら、教育会のよさを生かした事業展開をしたい。教育会には、対話を通して年代や学校を超えてつながれる良さがある。
  - ・全県研究大会のような立候補制がよい。自主性、主体性を支える事業を大切にしたい。そのことが分かる事業のネーミングを検討することもよい。参加者を増やすためには、オンラインの活用や中南信に出向いての開催もしたい。
  - ・全県研究大会の参加者が少ない要因には、郡市の委員会や同好会、各学校の研究授業の時期との重なりがあるのではないかと。信教ならではの事業を展開して、代議員や学年主任等が参加の声がけができるとよい。高校との連携を図る形で研究助成を活用してもよいのではないかと。
  - ・資格の取得につながる事業ならば、若い先生方が参加

してよかったと実感できるのではないか。また、信教の企画だから行ける、できるというのもよい。やりたいことができるようにするためには組織拡大が大切。年度初めの4月1日の声かけが重要で、校長は代議員と事前に話をしておき、代議員は学年主任等に声かけをしておく。その上で、4月1日に校長が全職員に話すようにしたい。

- ・教育会の事業で、憧れに出会ったり、人とのつながりができたりすることは大事だが、学校を空けられないということもある。空けられるようにする工夫も大事ではないか。自郡では、土曜日にやっていた企画を平日の午後に移し、児童生徒は下校とし、研修日とした。発表等も手挙げ制とした。また、若手が活躍できる内容の工夫もしている。
- ・教師塾Bでコーチングを学んだ若手が「行ってよかった。学校外の場所で同世代の先生と話せたこともよかった」と語ってくれた。参加者が少なくともよいものはよいということもある。教育会や同好会、いろいろな企画が重なって出られないというが、選択肢が多くあって選んで決定できるという考え方もある。広報の工夫をすると同時に、やさしく背中を押して参加を促すことも大事にしたい。
- ・自主的、主体的になれる事業の工夫を大事にしたい。2校目の若手が多い自郡では、2校目教師の会を設けて、自ら研修を企画して学びたいことを学んだり、教師塾Bを活用したりしている。参加のしやすさということでは、駐車場の確保や平日の午後開催などにも配慮している。
- ・土曜日の企画を平日の実施にしたり、小中など校種が異なっても参加しやすい時期に変更したりしている。また、郡市教育会の委員会を整理して数を少なくした。やらされ感ではなく、自分たちの教育会という意識が持てるようにしたい。郡では、「私たちの未来に向けて」をテーマにしている。

## 【協議Ⅱ】

- (4) 令和7年度予算編成方針（収入見込み）
- (5) 第139回信濃教育会総集会佐久大会基本構想
- (6) 今後の事業について
  - ・産育休中教職員対象セミナー（1.23）
  - ・第4回教師塾A（1.18）
  - ・『秘伝「信州教育の極意」』発刊
- (7) 認定法改正に伴う理事の定数について

## 【報告・連絡】

- (1) 教育研究所の応募状況
- (2) 令和6年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ
- (3) 第21回信州“教育の日”について
- (4) 第76回日本連合教育研究大会茨城大会及び愛媛大会参加報告
- (5) 令和7年度教師塾Bについて
- (6) 令和7年度臨地講習・基礎講座の予定
- (7) 出版物（休み帳等）の採択状況
- (8) 令和6年度第28回教育研究論文・教育実践賞の募集

## 【閉会のあいさつ】

- 長野上水内教育会に、若い先生方が語り合う「Edカフェ長水」という企画がある。そこに参加する機会があるが、若い先生方の豊かな発想や瑞々しい感性にいつも感心している。
- 過日のテーマは「未来の学校」だった。参加した先生方からは、AIやICT等が活用されている様々な具体が語られた。例えば、歴史上の人物と歴史上の出来事について語るとか、トップアスリートと劇的な瞬間について語るなど。その場面の音や匂いまでも再現されるとか・・・
- 同カフェには、埼玉大学教授で信濃教育会教育研究所特任所員の岩川直樹先生も参加していた。話を聞いていた岩川先生が、次のようなことを話されたことが印象深かった。
- 「学校ができて150年余、人類の長い歴史の中では、わずかな期間。未来においては、学校が無くなることもありえる。学校があるとすれば、ヒントは今の学校にある。学校である以上、子ども同士のかかわりや、子どもと先生とのかかわりがある。どんな子でも迎え入れれば、出会いとふれ合い分かち合いがある。近頃は自由進度学習や探究といったことがよく言われるが、それらは教育方法である。未来の学校を考える上でも、学校の原点を大切にしたい」
- 令和7年度は、教育課程研究協議会のあり方を見直すこととなり、従来の授業研究会は行われない。教師が職能向上を図る上で、授業を見合うことや見てもらうことは大切である。その機会は、教育会や同好会に委ねられる。先生方とのキャリアカウンセリングを通して、全県大会等への参加や信濃教育会への入会を是非促していただきたい。



# ALL FOR THE CHILDREN

子どもたちが  
輝くことを願って  
私たちはこれから  
学び続けていきます。

## 01

### 特任所員の先生方より 心に残る一言

佐伯 胖 所長



表面に出ていない「その子」の訴えを感じようとする時、「その子」の世界を理解することができる。

奈須 正裕 先生



教師が物事に対して本気で問いをもったり、本気で社会を変えたいと思ったりしているのだろうか。

松木 健一 先生



過去の実践を編み直すことで、現在および未来が変わっていく。優れた教師はそれを根気よく繰り返していく。

岩川 直樹 先生



教師が1人の子と向かい合うことで、クラスみんなに影響を与え、みんなの関係が変わっていく。1対1の関係ではない。

高柳 充利 先生



学校は、子どもから湧きおこる何かをじっくり待ったり、子どもの生活文脈に合った活動をしたることができる場。

大日方 貞一 会長



富士山の裾野のように教師として豊かな人間性を広げていくにはどうしたらよいだろう。

# 02

## 研究所1年間を振り返って



子どもの学びの姿や教師としてのあり方を振り返る日々。こういう時間は今までなかなかなかったね。

あの頃の小学生も、もう中学生になったか〜

ほんと、研究所の学び、ためになったねえ〜！

県内外の学校視察は、自分の研究テーマに合わせてのべ30校以上！たくさんの学校に行ったね。

県外に出て、長野県教育のよさや、これから取り入れていきたいことも見えてきたね！

いろいろな学校の取組を見て、ワクワクしたね！

# 03

## TO BE CONTINUED

4月から現場へもどる研究員6名。教員人生まだまだ始まったばかり！これからも子どものためにがんばろう！

## 私を支えた漢字



人との出会いは新たな自分と出会うこと。多くの人との出会い、繋がりに感謝！！



研究すると、同じものでも今までと違う見方ができるようになる！あ〜、研究するって楽しい！



佐久市から長野市までの長旅だったが教員としてのあり方を長く考え続けた1年。



子どもを知ろうと取り組んだことが、自分を知ることにつながっていたことに気づかされた。



人生の中でこんなに徹底的に考える時間があったらどうか。それくらい子どもと自分に向き合う日々だった。



自分が変わるには、自分そのものを認める。相手をまらごと認める。そして、自分の目指すべきものが見えてくる。

## 令和6年度全研究大会報告

開催校	参加者数 (役員含む)	調査委員長・信教	役員のぞく
10/17 (木) 研究グループ (富草小学校)	16	3	13
10/28 (月) 信濃遊学会 (屋代中学校)	12	3	9
11/1 (金) 佐久市立浅科中学校	19	2	17
11/5 (火) 小椋裕太 (高森南小学校)	10	3	7
11/5 (火) 長野市立長野中学校	17	3	14
11/6 (水) 長野市立松代小学校	46	2	44
11/8 (金) 駒ヶ根市立赤穂南小学校	27	3	24
11/8 (金) 長野市立三本柳小学校	12	2	10
11/11 (月) 小口敬史 (泰阜中学校)	14	3	11
11/14 (木) 安曇野市立豊科東小学校	17	3	14
11/15 (金) 伊那市立伊那小学校	49	3	46
11/15 (金) 藤原慎吾 (千代小学校)	23	2	21
11/19 (火) 上村 亮 (旭ヶ丘中学校)	25	2	23
11/19 (火) 本間大貴 (豊野西小学校)	14	3	11
11/21 (木) 高野直実 (御代田北小学校)	17	3	14
11/22 (金) 樋口亜紀子 (和小学校)	68	3	65
11/22 (金) 辰野町立辰野西小学校	9	3	6
11/22 (金) 伊藤あおい (塩尻西小学校)	9	2	7
11/22 (金) 秋山佳樹 (川田小学校)	22	3	19
11/22 (金) 飯島政昭 (裾花中学校)	11	2	9
11/26 (火) 佐久市立浅間中学校	73	2	71
11/27 (水) 丑澤颯斗 (塩崎小学校)	24	2	22
11/29 (金) 佐久市立佐久城山小学校	44	3	41
11/29 (金) 和田聖国 (古牧小学校)	14	3	11
総 計	592	63	529

※参加費徴収は、学生、一般、県外教員

### 退職校長会との懇談会

12月4日(水)に退職校長会の役員の皆様と懇談会を行いました。信濃教育会の取組や課題を報告した後、質疑が行

われました。退職校長会の皆様からは、授業を見合う貴重な機会である全県研究大会の一層の充実や、研究所に学ぶ研究員の貴重な学びをぜひ現場に還元してほしいなどのご意見をいただきました。その他、教育の大きな変革期にある現在、信濃教育会が果たす役割とそれへの期待について様々な視点から語られ、中身の濃い懇談会となりました。



## 入会のおすすめ

# 「信濃教育会賛助会員会」

～退職後も信教とともに学び続けましょう～

長年教職にあり、本県教育文化の向上発展にご尽力くださいましたことに対し、心から敬意を表します。信濃教育会賛助会員会は、長野県教職員として勤務し、退職した方全員が、職種・職階の別なく入会でき、手を取り合って研修に努め、賛助・親睦・助け合いを願って活動している団体です。令和6年度退職または退職予定の先生方には、その意義をご理解いただき、入会くださいますようお願い申し上げます。（なお、退職後、再任用や市町村教育委員会等教育関係機関へ勤務される方は信濃教育会への再入会をお勧めします。）

### 信濃教育会賛助会員会とは

#### 【会の目的・内容】

信濃教育会・郡市教育会事業への賛助、会員相互の研修親睦、長野県教育の振興発展に寄与

#### 1 長野県教育に関する諸問題の解明と世論の喚起

- ①教育問題検討会（代議員・本部役員で構成）
- ②信教との懇談会
- ③信州“教育の日”（構成団体として参加）

#### 2 地域における生涯学習の環境整備と推進

- ①郡市教育会の事業を賛助  
（夏季大、同好会等への参加等）
- ②郡市賛助会員会活動の充実  
（地域研修、実技講習、郡市教育会との懇談、会報発行、学校現場へのボランティア等）

#### 3 公益社団法人信濃教育会の事業への賛助

- ①総集会への参加（開催地会員を中心に）
- ②生涯学習センターの運営と活動への賛助
- ③雑誌『信濃教育』『学事関係職員録』の購読、購入促進

#### 4 会員相互の研修・厚生・連絡

- ①総会（講演会・郡市活動報告）
- ②会報（年3回発行）
- ③県内研修視察旅行
- ④弔意（弔辞奉呈・会報に弔意掲載）

#### 【会員の資格】

信濃教育会会員だった人、ならびに会の目的に賛同する人

### 申込みについて

#### 1 入会の申込み

「信濃教育会賛助会員会入会申し込み」はがきを4月1日（火）までに、入会したい郡市の賛助会員会代議員宛てにお出しく下さい。

入会されない場合も必ずお出しく下さい。申し込みはがきおよび郡市賛助会員会代議員名簿等は、後日各人宛てにお届けします。

※なお、信濃教育会事業への賛助ということから雑誌『信濃教育』の購読および『学事関係職員録』の購入募集もあわせていたします。

#### 2 会費

年額 3,000円

#### 3 会費納入方法

後日、振替用紙を送付しますので、郵便局またはコンビニから振り込んでください。

#### 4 会員の特典

- ・本会会報（年3回発行）
- ・県内研修視察旅行への参加
- ・信濃教育会事業案内の送付



研修視察旅行（下伊那）

信州の生活科・総合的な学習の時間 実践誌

新刊の  
ご案内

# ふるさとの大地 28

公益社団法人 信濃教育会編

県下各地の生活科・総合的な学習の時間 実践事例が満載！

地域の自然や社会とかかわる子ども——。  
教師の戸惑いや悩み、よろこび——。  
迷いながらも展開していった活動の歩みを素直に記して  
います。

—生活科・総合的な学習の時間の実践がより充実することを願って—

■仕様 B5判・並製・カラー口絵4ページ・本文64ページ ■定価 500円(税込み)



発行／信州教育出版社  
Tel. 026-232-0291



取扱い／しんきょうネット  
Tel. 026-233-1135 Fax フリーダイヤル 0120-25-1098

## 信濃教育

予告



「我が校の授業研究」

1学年「私だけの記念切手」で描いた作品です。他の子たちが昔の自分の写真や思い出に残っている写真を用いて作品を創っていく中で、幸亜さんは大好きなおオカミを題材に選びました。なぜおオカミを題材にしたか尋ねると、「おオカミの強さとかっこよさが好きだから。なんだか悲しそうな表情のおオカミを見てみると、おオカミが平和を願っているような感じがするんだ」と言いました。そんな幸亜さん

の視点に驚かされながら、制作を見守りました。配色についても工夫を凝らし、実際のおオカミの持つ「灰色」や「茶色」ではなく、神秘的な雰囲気が増す「青色」を選択しました。そして、左下にはオレンジで描かれた「6」。6を選んだのは、「形のバランスがいいから」と幸亜さんらしい回答がありました。幸亜さん自身の思いが画面にあふれた作品です。

指導者  
白田 裕太（軽井沢中学校）

100年館の絵

令和5年度 永年保存作品  
今を生きる子どもの絵



「平和をのぞむオオカミ」  
柳澤 幸亜（軽井沢中1年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人  
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470  
URL <https://shinkyo.or.jp> ✉ [shinkyo@shinkyo.or.jp](mailto:shinkyo@shinkyo.or.jp)  
編集兼発行人／大日方貞一

